

2006 年度～2017 年度

調査研究助成

○ 社会人の学びを応援（2006 年度より、33 人に助成）

◆2006～2012 年度

ボランティアコーディネートを学び実践に生かす人のための調査研究助成

| 年度 | 氏名 | 研究テーマ |
|------|--------|--|
| 2006 | 北村 広美 | 在日外国人の保健医療サポート体制構築 |
| | 宮口 智恵 | 子どもの虐待予防と再発防止をめざした親支援 |
| | 寺村ゆかの | 地域システムとしての産後母子家庭訪問の位置づけ |
| | 高尾 千秋 | 青少年活動分野でのボランティア指導者養成プログラム開発と養成事業、実践活動の評価 |
| 2007 | 徳永 桂子 | ジェンダー視点に基づく思春期向け「性の健康教育プログラム」作成 |
| | 山本 晃輔 | 市民団体と教育機関の連携による渡日外国人（ニューカム）子弟へのエンパワメント |
| | 北村 広美 | 2006 年度から継続 |
| | 岡澤 潤次 | 高齢者の活躍とシルバー人材の活用 |
| | 金治 宏 | NPO の存続可能性 |
| 2008 | 後藤 至功 | 地域防災施策の観点からみる地域福祉 |
| | 平野 智之 | 学校と地域の協働の意義と可能性 |
| | 井上 はねこ | 親子で学ぶメディアリテラシー |
| 2009 | 石崎 和美 | 母子自立支援施設におけるジェンダー視点にたったエンパワメント |
| | 赤堀 富子 | 障がい児の「描画発達」の臨床心理学アプローチ～特別支援教育と地域で支える～ |
| | 高橋 眞琴 | 地域における障がいのある人々の包括的生活支援モデルの開発 |
| | 高井 貴雄 | 行政と社会教育の場としての NPO |
| 2010 | 三並 郁恵 | 不登校をめぐる教師の支援に関する調査的研究 |
| | 藏原 亜紀 | 「ひろば」における子育て支援 その質的向上と安定的継続に向けて |
| | 朝尾 浩康 | 共感的自己肯定感を育むインクルーシブ教育に向けて |
| | 山本 康輔 | 日本における定住外国人の子どもたちへの教育環境への支援 |

| | | |
|------|-------|---|
| 2012 | 野口 真紀 | コミュニティーソーシャルワークの視点を導入した子育て支援におけるコーディネート機能のあり方について |
| | 泉 和男 | 障がい児の育ちと暮らしを築く地域生活支援のあり方に関する研究 |
| | 大西 晶子 | 子どもの健やかな成長を中核においた保育所による家庭支援のあり方 |
| | 中西 頼子 | 中核都市における地域活性化～住民組織・自治支援のしくみに関する研究 |

◆2013～2014 年度

市民力を高めるボランティアコーディネート実践のための調査研究助成

| 年度 | 氏名 | 研究テーマ |
|------|--------|--|
| 2013 | 三苫 利光 | ハイブリット・スクール（混合型高等学校）における社会体験学習の意義と可能性の追求 |
| | 岡本 祥公子 | プロボノと NPO・地域コミュニケーションとのコーディネート実践～コーディネーションの要点および実践者の変化 |
| | 布谷 由美子 | これからの継続可能な社会での働き方～そのための教育と求められる力～ |
| | 砂田 貴彦 | 介護現場に関わる職員及びボランティア自身が持続的にエンパワメントできるようになる社会及び事業所の環境設定について～介護現場の違和感調査から～ |
| 2014 | 福井 正人 | 公的な社会資源等で不利な、兵庫県の地方における在宅失語症者の意欲維持・向上の要因に関する研究 |
| | 長谷川 香里 | メディアとしての創造の場 |
| | 岡本 祥公子 | 2013 年度から継続 |
| | 今西 碧 | すべての人がより良く生きるために～障害児者と過ごした経験と社会環境の中の障害児者の捉え方の関連について～ |
| | 内田 千聖 | 抑圧状況からの解放に置ける対話の可能性に関する研究～地域生活を持続可能とするための ESD をてがかりに～ |

◆2015 年度は目標設定見直しのため中止

◆2017 年度

市民力を高めるボランティアコーディネート実践のための調査研究助成

| 年度 | 氏名 | 研究テーマ |
|------|-------|---|
| 2017 | 久保 宏紀 | 健常高齢者における咳嗽(ガイソウ) 機能とその関連因子 |
| | 井原 一久 | スポーツを通じた貧困児童に対する社会的包摂についての研究～ラジオ体操を通じた貧困児童の支援と今後の課題 |